

八潮市議会議員 あさだ和宏(45歳)無所属(刷新の会)



継続こそ・力なり!!
子育て世代の声を市政へ!!

未来の八潮・子どものために… 和宏のほっとかない!! NEWS vol.51〈6月議会報告〉

編集・発行

あさだ和宏を育てる会
会長 落合 利治
編集長 中井 欣也

〒340-0821 八潮市伊勢野306
FAX 048(996)4361

●発行日 平成25年7月●

討議資料

子供に
ツケを
まわさない!



暑中お見舞申し上げます。



今年は、例年より約二週間以上も早く梅雨明けとなり、本格的な夏を迎えました。夏の時期は、他の季節よりも体力を消耗し体調を崩しやすい時期でもありますので、皆様も、体調管理には十分注意してこの「夏」をお過ごし下さい。

さて、6月議会が6月3日から20日まで開催されました。今議会は、4月に新年度予算がスタートし数ヵ月後ということもあり、議案数も少なく、委員会の審議時間も短時間で終了しました。そして今回の議会も、11年前の初当選以来、一回も休むことなく行っている一般質問を実施しました。私の質問の詳細については、次ページをご参照下さい。

話は変わりますが、先日、毎年発行されている「都市データパック」(東洋経済別冊)の「自治体すみよさランキング」の調査結果が発表となりました。本市の全国総合順位(812市区)が昨年の105位から121位へとダウンしています。一方、つくばエクスプレス沿線の順位を見ますと、三郷市175位 流山市 72位 守谷市 3位という順位になっています。もちろん、これはあくまでも一つの「指標」であり、一喜一憂することではありませんが、「外から見た“八潮市”を知る上で一つの判断材料になると私は考えます。

★今後、ますます激化する「都市間・沿線間競争」に勝ち残っていくには… ～キーワードは「高齢社会」「若い世代」～

一つ目のキーワードは「高齢社会」です。

我が国は、これから世界に類をみない高齢社会が急速なスピードで到来します。当然の話ですが、高齢化が進むスピードを止めることは不可能であり、いかに社会全体として高齢社会を「支える仕組み」を構築するのが重要なことだと考えます。もちろん、高齢社会はマイナス要因ばかりではないと私は考えます。例えば、高齢者の皆さんが持っている多くの経験と豊富な知識は貴重な「宝物」であり、それを社会全体としてどう活用するか、しないか、将来、大きな差が生じます。

全国で先進的に取り組んでいる事業を参考に、本市も、積極的に事業を展開する必要があると私は考えます。

そして、もう一つのキーワードは「若い世代」です。

労働生産性が高い若い世代、子育て世代をターゲットに、その世代の関心が高い施策を充実させ、定住人口の増加を図る自治体が増加傾向にあります。本市の子育て世代に対するサービスの水準は近隣市と比較しても、高いとはいえないのが実情だと私は感じます。

子育てや教育等に関連する様々なサービス水準をどこまで上げるのか課題はありますが、最低限、せめて人口が同規模の自治体や、日常の生活圏が同じ近隣市並みにすることを必要と考えます。

さらに、本市は都心に近いという「地の利」があります。

市内には、首都高速道路や外環道といった大きな環状道路が走っています。また、つくばエクスプレスを利用すれば、都心へのアクセスも僅かな時間で可能であり、この「利点」を最大限活用しなければ、将来的に「まち」が衰退するといっても過言ではないと思います。

高齢社会を迎え、今後、社会保障費はさらに増加する傾向であり、その財源の確保は喫緊の課題であります。また「教育」や「福祉」等への水準を維持拡大するためのも、財源の確保は欠かすことは出来ず、「持続可能なまちづくり」をする上でも、地元経済(商工業・農業)の活性化振興策も積極的に実施する必要があると私は考えます。

いみじくも、本市は、あと数ヶ月で、本市の市長・市議会議員選挙が行われる予定です。(9月1日告示 8日投開票)

立候補をする人は、「何をするのか」「何をしたいのか」を明確に意思表示する必要があります。また、有権者の皆さんは、候補者が「何をしたい人なのか」「今までどんな活動をしてきたのか」自分の目と耳・自分の意思で判断し、一票を投じてほしいと思います。

八潮市議会議員 あさだ和宏



一般質問

風疹ワクチン接種費用の助成について

Q 風疹の感染拡大を受けて、県内の自治体でも、風疹ワクチン接種費用の助成を実施するケースが増えています。今後、本市でもワクチン接種費用の助成を実施する考えについてお聞きします。

A 埼玉県では患者数の推移を見極め費用の助成をするか、判断するとの見解をしております。一方で県内市町の中には、独自に風疹ワクチン接種費用の一部助成を始めている自治体もあります。さて本市では、今のところ任意予防接種となつている大人の風疹予防接種についての接種費用の助成は考えていませんが、今後、国、県等の状況を踏まえ、対応を検討していく予定。

再質問

Q 現時点で草加保健所管内での発症は「21名」とのことだが、今後流行のピークと言われている「夏」をこれから迎えることになるが、担当として、感染拡大の懸念は

A 通常、春先から夏場にかけて感染者が増加する傾向にあり、今年も同じような状況になるのではと理解している。

再質問

Q 八潮市と草加八潮医師会、草加保健所との協議は実施しているのか

A 現在のところ、具体的な協議はしていない

再質問

Q 市民の声ボックスや担当課への問い合わせはどの位あるのか

A 市民の声ボックスには「3件」保健センターへの問い合わせは「日1、2件程度」。

再質問

Q 「そもそも論」の話になるが、本来は今回のケースは国が責任を持つて実施すべき事だと考えます。その理由として学校での予防接種は1977年から1994年の

間は、女子中学生のみが対象であり、今回もこの時期に予防接種を受ける機会がなかった男性が感染し、発症、それが主な要因で感染が拡大しているのが現状。繰り返になるが、現時点では、国が動かない。だからこそ、「次善の策」として、地方自治体が接種費用の一部を助成することにより、予防接種を受ける環境を整備することが大切だと私は考えますが、多田市長の考えは？

A 今回の質問を聞いていて、「他市がやっているから」「みんなやっているから」といった理由が多いが、私は不思議に感じた。風疹のために貴重な税金を使うことはどうか、助成をする理由を考えるべきではないか。市は様々な医療に関しての助成を実施しているし、仮に収入が少ない人に助成をするのは良いと感じるが、収入のある人に助成をすることはどうか疑問。このままではインフルエンザも助成しろという議論になるのでは。市長として少しでも出したい気持ちはあるが、きちんとした根拠を考える必要がある。

再質問

Q 確かに市民からお預かりした税金をどのような使うのか慎重にすることは理解できる。

ただ、今回の場合、現段階で国が実施しない状況の中で、次善の策として、自治体が助成、さらに近隣自治体が協力、連携し、感染拡大の防止等、少しでもリスクを下げる必要があるのではないのか。助成は「目的」ではなく「手段」。「ベスト」のことが不可能なら「ベター」という選択もある。だからこそ、多田市長の政治的判断として、助成することが重要ではないのか。

A 朝田議員は、私の考えをご理解していないようだ。仮に助成しても、果たして3000円から5000円の一部助成で、どれだけ対象者が医者に行くか私は疑問に感じている。

であるならば、国が音頭をとり、会社等が対象者に対して積極的に指導するなど、最も効果のあるやり方を考えるべきではないのか。

Q 仮の話ですが、同じ医師会である草加市が助成をする決定した際も、本市は実施しないのか。

A お気持ちは理解するが、現時点では国や県の動向を注視していきたい。そして市民が自分たちで出来ることはやってほしい、と思う。

和宏の考え・意見

今回、久しぶりに多田市長との議論をした質問内容でした。確かに市長が言うように何でもかんでも公費助成を…という考え方は、私も同感であり、ある程度の歯止めをしなければベネフィットトラップ（給付の罠）になる可能性もあります。

今回の件は、国の制度不備が要因であり、本来なら国が責任を持つて何らかの対応をすることをすれば、感染拡大に関しても大きな広がりをもてはならない。たかもしれません。しかし、私の再質問で述べたように、国や県が実施しないのであれば「次善の策」として各自自治体が出来る範囲の努力をすることが先決ではないかと思っています。

恐らく助成をしている自治体の大半も厳しい財政状況の中での新たな「公費助成」だと感じます。そのような中でも何故、公費助成をするのか、それは行政側の「市民の“いのち”を守る」という強い気持ちと、市長の強いリーダーシップだと考えます。

「無いものねだり」と言われるかもしれませんが、本市は、児童館もない、子ども医療費助成も県内で低い、産科もない。これで、この先、高齢社会を支える世代がこの八潮市に住んでもらう、ずっと住み続けたい、と思うのか、本市の現状を見る限り、私はとても危惧をしています。

ましてや、つくばエクスプレス沿線でも、若い世代を取り込むための様々なサービスを充実・拡大しているケースが増加しており、日本全体が人口自然減時代を迎えた昨今、この状況はさらに大きくなつてくると予測しています。

ちなみに、風疹ワクチン助成を本市で実施した場合の費用は、3000円の補助をした場合、約760万との担当課の試算です。

760万円は小さな金額ではありません

んが、市民一人当たり換算すれば「一人約90円」の負担で出来る事業です。

多少、穿った見方になります。が、今回の件、私を含め4人の議員が質問をしましたが、方向性は今のところ変化なし。財政面で実施しないというより、何か他に理由があるのでは…と疑ってしまっています。（もしかして…）

学力向上について

Q 現在、本市では、3年生以上の児童生徒を対象に、授業の補充学習や朝自習、家庭学習のための教材「八潮ベシク・II」を使用しています。そこで次の2点についてお聞きします。

Q① それぞれの学校での活用方法について（主な活用方法）

A 八潮ベシク・Iについては、授業が始まる前の朝自習や、児童生徒が自らの課題や学習内容を選択して取り組む「えらべる科」の時間、授業の中や放課後、長期休業日の補習、及び家庭学習で活用しています。

八潮ベシク・IIはベシク・Iと同様な活用法に加えて、テスト前の勉強や入試対策で有効活用出来ると考えています。

Q 学校現場の教員の一部からは、家庭学習として使用する場合、大きさは重さなど、改善してほしいとの声があるが、今後、改善する際に検討する考えについて

A 現場から改善してほしいとの声はさほど多くはない。しかし、今後、意見を聞いてモデルチェンジする際には現場の声を参考にしたい。

Q 学習指導要領が改定され、低学年（2年生）の学習内容が増加し、このときに学習がつかずきやすいとのデータがあり、基礎学力を定着する観点からも、今後、小学校2年生版の八潮ベシクを作製する考えについて

A 今後、それぞれの検証を含め、検討したい。

Q② どの程度、基礎学力が向上しているのか等、検証をする必要があると感じるが、教育委員会としての見解を

A 基礎学力の定着を確認するために、3校の中学校では、ベシク活用後、確認として検定試験を実施しています。

「教育に関する3つの達成目標」

(埼玉県が実施する基礎基本の習得調査) [単位: %]

			H18	H24
小学校	国	県	83.8	96.2
		八潮	82.3	97.6
	算	県	87.9	96.3
		八潮	85.2	98.0

			H18	H24
中学校	国	県	81.7	93.0
		八潮	76.9	91.6
	算	県	76.9	90.5
		八潮	72.3	93.0

Q 教育長はどのように感じているのか
本市の教育を含め、教育に「これで良い」と思うことはない。さきほど部長が家庭での教育に関して説明があったが、本市の場合、小学生で「まったく家庭で勉強していない」という割合が「9.1%」（県平均5.4%）となっており、一つの課題。
もちろん、教育は「人を育てる」ということが重要であり、「褒めて」「認めていく」ということも大切。今後も学校と家庭と連携を含めて頑張っていきたい。また教育はすぐ結果が出ないことがあるのももう少し時間。

Q 教育委員会として数年前から様々な取り組みを実施し一定の成果が現れていると自身は感じているが、教育委員会として、今後の課題は何か具体的に。
特に、国語の場合は「応用力」「発展力」算数では「思考力」が足りないとの結果。それと「家庭での学習」が一つの課題だと感じている。

「埼玉県小・中学校学習状況調査」

[単位: %]

			Q.授業以外に1日にどの位勉強しますか？ A.全く・殆どしない	
小学校 (5年)	県		5.4	
	八潮		9.1	
中学校 (2年)	県		10.6	
	八潮		17.1	

			Q.家庭でしている勉強は？ A.予習・復習 A.試験がれば備えて勉強	
小学校 (5年)	県		45.6	43.0
	八潮		42.7	37.5
中学校 (2年)	県		49.9	77.5
	八潮		36.9	69.3

和宏の考え・意見

ここ数年、学校、家庭、教育委員会が一体となり、各種、取組みを実施し、「基礎学力」については県平均と同じ、または平均以上の数値となっており、一定の評価が表れていると感じます。一方、「応用力」や「発展力」「思考力」といった点に関しては、まだ発展途上段階だと思えます。しかし、この件に関しても、児童生徒自身の努力はもちろん、学校現場、教員による魅力ある授業作り、そして家庭、教育委員会が協力すれば本市の教育もさらに向上・発展すると私は確信をしています。
そのためには、各ご家庭での家庭学習への取り組みが大きな「鍵」だと私は思います。ですので、保護者を中心に関係者の皆様のご理解・ご協力をお願い致します。



TX高架下の活用について

Q 今後、本市の魅力あるまちづくりを進めるためにも、市内を走る、つくばエクスプレス高架下部分をどのように使用するか重要なコンセプトの一つではと考えます。そこで、この場所を管理している会社側（つくばエクスプレス）に対して、具体的な活用方法等を提案・提言する必要があると思いますが、市の見解をお聞かせします。

A はじめに、本市におけるつくばエクスプレスの鉄道延長は、足立区との都県境から三郷市との行政境まで約5.1キロメートルとなっています。

そのうち、河川や地下部分等により高架下利用の出来ない部分があり、また、駅舎やTXアベニューなど、既に利活用が図られている部分を合わせた延長が約2.7キロメートルとなっていることから、想定される高架下利用が可能な延長は、約2.4キロメートルとなります。さて、ご質問のつくばエクスプレス高架下の具体的な活用方法ですが、その活用条件等につきまして、TXを運営している首都圏新都市鉄道株式会社に確認したところ、高架下は経営上、大変重要な資産であり、鉄道会社としても今後、周辺の街並みが成熟してきた段階で積極的に収益事業を展開したいとのことでした。

また地元市への貸し出しについては、鉄道施設に影響を及ぼさないよう利用することが前提であり、周辺のまちづくりに貢献する施設であれば、利用形態、管理方法などといった点を踏まえ、相談に応じることが可能とのことでした。市としても、高架下の空間は市民によるまちづくり活動を進める上でも大変有効なスペースであること認識しておりますので、今後、具体的な活用方法が見えてきた際には鉄道会社に対し、提案をしてまいりたいと考えています。

「当地プレート」の導入について

Q 原付バイクの課税標識（通称・ナンバープレート）の図柄や形状を、自治体の観光PRやイメージキャラクター等を採用する取り組み（ご当地プレート）をする自治

体が増加しています。今後、本市でも同様な取り組みを行い、まちへの愛着や観光PR等を推進する考えのついてお聞きします。

A 「ご当地プレート」の導入第一号は平成19年の松山市であるといわれています。その後、全国的に拡大し、近年、導入団体が増加、日本経済研究所の調査では、平成25年6月現在、全国で200の団体が導入が決定されています。埼玉県内では19団体が導入しており、近隣では三郷市が平成24年5月に導入しています。

さて、ご当地プレートの効果として、まちへの愛着が深まることや観光PRの推進などが挙げられますが、一方でナンバープレートの作成費用が割高になるといった課題もあります。ちなみに作製費用は通常1枚100円程度ですが、独自に作製する場合は、発注枚数等にもよりますが、その3〜4倍になることが見込まれています。

今後、市としてどのように取り組んでいくか先ほど申し上げた費用面での課題等を含め、総合的に検討してまいりたいと考えています。

(要望)

確かにご当地プレートを作製する際には費用も発生し、どの位の経済効果が生じるかは不明だか、街をPRするための広告料と考えてほしい。

※紙面の都合上、質問、答弁の内容を抜粋してあります。正式な議事録は八潮市議会ホームページをご参照下さい。



平日にもかかわらず多くの方が傍聴にお越しいただきました。

市議会議員(3期) 12年での活動と実績

★政策提言し、後に実現した市の施策・事業

- ・自治基本条例の早期制定
- ・防災基本条例の制定
- ・自治体情報メール配信サービスの実施(今秋、実施予定)
- ・災害時要援護者リストの作成(現在、策定中)
- ・高校生による選挙事務(参院選より実施予定)
- ・中学校修学旅行費用の見直し(減額済)
- ・市内全小中学校、教員用パソコン設置
- ・学校給食の充実
- ・女性消防団の採用
- ・選挙ポスター公費負担限度額の見直し
- ・市長選挙時、公費による選挙公約ビラ配布を可能とする条例を制定



(毎議会終了後には一人で駅頭に立ちニュースを配布しています)

★その他、「教育」「福祉」「行財政改革」等を中心に、当選以来、すべての議会で一般質問を実施。(質問した項目は150項目以上)

★市民の皆様へ、自らの活動、議会での出来事を発信!

- ・議会ごとに発行している「和宏のほっとかないNEWS」12年間で、通算50号を突破。(発行費用は全て自費)
- ・発行部数も約77万部を発行。ポスティングや自ら駅頭に立ち配布。
- ・議会での出来事等、ブログ「和宏のひとりごと」・Facebookで発信。

★議会報告会(タウンミーティング)を適宜開催しました。

★議会改革の一環として、平成25年3月議会に、議員定数削減案(22名→18名)を提出。

あさだ和宏プロフィール

1968年3月28日 八潮市生まれ。(B型)

- 八潮市立八潮第八小学校(現 大瀬小)
 - 八潮市立八潮第二中学校(現 大原中)
 - 私立 成立学園高等学校(商業科)
- 卒業後、父が経営する会社へ入社。

2001年 9月 **33歳**

- 八潮市議会議員選挙立候補

1,229票を得て初当選(11位当選)

2005年 9月 **37歳**

- 八潮市議会議員選挙立候補

1,415票を得て2期目再選(9位当選)

2008年 4月 **40歳**

- 専修大学法学部・法律学科(2部)に入学、
議員として政策提言能力の向上や法律・行政学等を学ぶ
(2012年 同大学卒業)

2009年 9月 **41歳**

- 八潮市議会議員選挙立候補

1,733票を得て3期目当選(3位当選)

(建設水道常任委員会副委員長を2年間務める)



3歳(わんぱく坊主)



33歳(1期目)



37歳(2期目)



44歳



41歳(3期目)



[上田清司埼玉県知事]
知事主催の勉強会や面談を通して
八潮市政の諸課題について
レクチャー、アドバイスを頂いております。



[吉田信解本庄市長]
市議時代から交流のある定期的な
情報交換や様々なアドバイスを頂いております。

<現在>

- 総務文教常任委員会委員
- 議会運営委員会委員
- 八潮市議会会派「刷新の会」代表

<所属団体>

- 青年地方議員の会 ・ 埼玉青志会

<その他の役職>

- 大瀬小学校 PTA 会長、大原中学校 PTA 会長、
埼玉県立八潮南高校 PTA 会長を歴任。
- 現在、八潮南高校後援会会長

<家族構成>

- 父・母・妻・長男(大学生)の5人家族(その他、犬・猫多数)